

JSAAE

NEWS LETTER

2004 年

No.27

2 月

Japanese Society of Alternative to Animal Experiments

日本動物実験代替法学会

目 次

1. 第 17 回日本動物実験代替法学会を終えて	2
2. 2003 年評議員会議事録	3
3. 2002 年度日本動物実験代替法学会 決算報告	6
4. 皮膚刺激性試験代替法バリデーション研究の提案	7
5. 広報委員会からのお知らせ	8

第17回日本動物実験代替法学会を終えて

第17回日本動物実験代替法学会大会長 二宮博義

去る11月7、8日に麻布大学（神奈川県相模原市）にて第17回日本動物実験代替法学会が開催され、近年になく多く（約340名）の方々の参加をいただき無事大会を終えることができました。また、大会の終了時に、大野泰雄学会長、板垣宏副学会長をはじめ多くの皆様から、「内容のある意義深い大会」との評価をいただいたことは、主催者として大変光栄に思っている次第でございます。

今回の大会の目的として、1) 欧州化粧品指令第7次改正でいくつかの動物試験の禁止（2009年）、OECD（経済協力開発機構）における代替法のガイドライン化が進行している現状から、欧州での代替法の取り組みの現状を知る、2) 我が国の代替法開発の現状や将来についても、代表的な企業の研究者や国会議員による討論をする、3) 各生物医学系大学における適正な動物実験や代替法の取り組みの紹介、4) 動物実験と動物福祉、この相反する命題をどのように考えればよいのか、と盛りだくさんな企画としました。また上記のテーマを、学会員のみならず非会員、一般市民、学生等に広く知ってもらうために、大会2日目は市民公開フォーラムとして、幅広い階層から多くの方々が大会に参加できるよう配慮した次第です。

大会初日の朝9:00から、シンポジウム・「皮膚刺激性試験代替法キットのバリデーション報告」がスタートしましたが、シンポジウム開始前にすでに100人程が席についており、このシンポジウムの重要性や関心の高さに、身が引き締まる思いがいたしました。次いで、「大学における動物実験実習と代替法の取り組み」について医学部、歯学部、薬学部、獣医学部の各先生にご講演をいただき、参加した学生から、こうしたシンポジウムを数多く企画してほしいとの意見も聞かれました。「欧州での代替法の取り組みの現状」については、当初ECVAM代表のDr. Thomas Hartungを予定しておりましたが、諸事情で主任研究員のDr. Silvia Casatiにご講演とECVAM、JaCVAM、ICVAMとのcollaborationの協議を依頼いたしました。

次いで、「わが国の代替法開発の現状や将来」について、代表的な企業の研究者、立法や行政の担当者による講演があり、代替法の必要性やわが国としても代替法の開発を積極的に進める姿勢が示され、活発な意見交換が行われました。もう一つのシンポジウム「動物実験と動物福祉」では、動物実験擁護派、反対派、中立派、ジャーナリスト等より幅広く意見を交換していただきました。多くの参加者から、好意的な感想をいただき、意見が異なる者同士が一堂に介し意見交換することの意義や効果に自信を持った次第です。

ポスターセッションでは、学会員から29題、ECVAMから参考演題として3題の発表があり、それぞれ最新の研究結果が紹介されておりました。ポスター会場で、Dr. Silvia Casatiが、発表されている研究の質の高さに驚いており、ECVAM、JaCVAM、ICVAMとのcollaborationが期待でき素晴らしいものになると言っていたのが印象的でした。

大会初日の夕方に、懇親会を開催いたしました。せっかく大学で大会を行うので、学生による弦合奏やマジックショー、社会人ボランティアによる合奏を企画しました。この企画が参加者の皆さんに大いに喜んでいただき、和やかなうちにいろいろ意見交換や懇談が行われました。

今回の学会の準備にあたりましては、経費をできるだけ節減する努力をいたしました。その結果、45万円が黒字となりました。この45万円を学会本部の国際会議準備金として、プログラム委員全員の名前で寄付することにいたしました。

今回の学会が、「内容のある意義深い大会」として評価をいただいたのは、ひとえに、貴重なご講演をしていただいた各先生方、シンポジウム、ポスターセッション等で名司会をしていただいた各座長の先生方、一般演題に積極的に発表していただいた学会員皆様のご尽力によるものです。この場を借りて心より御礼申し上げます。

第17回日本動物実験代替法学会プログラム委員

秋田正治（鎌倉女子大学）、板垣宏（資生堂）、猪股智夫（麻布大学）、田中憲穂（食品薬品安全センター）、二宮博義（麻布大学）

2003年評議員会議事録

開催日時：2003年11月8日 8:00~9:00,
12:30~14:30

場 所：麻布大学 百十周年記念会館会議室
出席者：大野泰雄, 板垣宏, 井上達, 今井弘一, 岡本裕子, 奥村秀信, 小野宏, 黒澤努, 黒田行昭, 小島肇夫, 酒井康行, 坂本典子, 佐藤温重, 杉山隆, 杉山真理子, 田中憲徳, 二宮博義, 畑尾正人, 吉村功, 渡辺正巳, 秋田正治, (合田真季)

評議員会配布資料

1. 2003, 2004年役員名簿
2. 学会の現状についての運営委員会報告事項 (第二回運営委員会資料2)
3. 2002年第24回評議員会議事録(案) (第一回運営委員会資料1)
4. 2003年1月27日開催運営委員会議事録 (第二回運営委員会資料)
5. 学術会議登録についてのメモ (第一回運営委員会資料3)
6. 2002年度会計決算報告書 (第一回運営委員会資料)
7. 2003年度予算執行状況
8. 2004年度予算(案)
9. 財務委員会
10. 国際交流委員会 (第二回運営委員会資料6)
11. 企画委員会報告(第二回運営委員会資料10)
12. 平成15年度の日本動物実験代替法学会論文賞選考について (第二回運営委員会資料9)
13. 編集委員会
14. 規約委員会 2003年度前半活動報告書 (第二回運営委員会資料4 修正版)
15. 規約改定案 (第二回運営委員会資料4 修正版)
16. バリデーション委員会から運営委員会への報告 (第二回運営委員会資料7)
17. 皮膚腐食性試験代替法の今後について(案) (第二回運営委員会資料8 修正版)
18. 広報委員会報告事項 (第二回運営委員会資料3)
19. 評価委員会
20. JaCVAM 構想について

議題：

1. 報告事項
- 1) 運営委員会開催, 国際大会誘致について, 学

術会議, バリデーション, ECVAM 訪問, 代替法についての国会審議について

・大野学会長より報告

2003年9月27日 14:00~18:00 国立医薬品食品研究所において第3回運営委員会が開催された(内容は資料参照)。

学術会議選挙があり, 第4部理学に田中憲徳委員が参加した。

日本でのバリデーションの結果を世界的に認めてもらうためには研究の当初より, ECVAMとの協力が必要と判断し8月に厚労省科学研究班 国際情報担当の豊田氏と会長, 副会長で ECVAM へ行き, 打ち合わせを行った。Hartung氏は日本が世界的に動くことに強い希望を示し, ICCVAMのSchectman氏からも協力要請を受けた。

谷議員により国会で代替法に対する質問が行われ, 厚生労働省としては今後も代替法に関して研究を進めるとの返答がされた。

2) 各種専門委員会活動報告および方針

・秋田庶務幹事より会員動向数 297名(2002年)から2003年9月20日現在 301名に増加した報告された。

・奥村会計幹事より2003年予算の執行状況として賛助会費が減るため前年度繰越金を含めて収入は9,920,000円程度になると報告された(2003年予算案資料参照)。現時点で5月に開催されたシンポジウムに10万円, バリデーションに50万円が使用されて, 300万円程度余る予定。また国際大会誘致のために今井委員を派遣したときの渡航費は国際準備基金から捻出したが, 余裕があれば一般会計から支払う予定と報告された。田中委員から賛助会費の入金状況における質問に9割が入金済みと返答された。

・二宮財務委員長より2002年会計報告において12万円ほど異なる部分があり調整を行う。新規賛助会費が3件ほど見込める予定と報告された。学会の財政状況が厳しいことから, 約20企業に協賛依頼を発送したが回答はなかった。また, 賛助企業の募集をニューズレター(2003, No. 23)に掲載し, 学会会員にも協力を求めた。さらに学会会員数の減少傾向にどのように歯止めをつけるかなどについてML会議を開催したと報告された。

・今井国際交流委員長より、11月1日にベルリンで開催された 5th World Congress on Alternatives (WC 5) の organizers meeting に出席した。この会議で、2005 年以降は従来 3 年毎であった World Congress を 2 年毎の開催に改めることが決定された。また、2007 年に日本が 6th World Congress on Alternatives の開催国となることが Alternatives Congress Trust (ACT) メンバーで合意された。なお、11 月 30 日にブリュッセルで開催される ECOPA の会議でも決定されれば最終的な合意に至ると報告された。また、WC5 の内容について、会期 (2005 年 8 月 21 日～25 日) や開催場所 (ESTEL HOTEL (空港よりタクシーで約 25 分程度)) の他に副大会長や運営委員などのメンバー案が出された (資料参照)。なお、大会長の Dr. Spielmann 氏より日本に協力 (賛助) が要請された。

2007 年の日本での国際大会において、開催までに国際本部の会議等に出席する必要があり、渡航費などが必要で運営費の確保が必至であり、日本企業に賛助を依頼する。協賛形式で日本実験動物学会等に協力を要請しよい返事をもたらしている。日本の組織委員会を結成した後、日本組織培養学会など他の学会にも協賛を依頼する予定。なお 9 月に開催された運営委員会において 6th World Congress on Alternative (WC6) の大会長は大野泰雄氏に決定したと報告された。

・酒井企画委員長より、2003 年 6 月 25 日にミニシンポジウム「動物実験代替・削減とヒト組織の利用」を開催し、参加者が 40 名と少数であったが、内容は充実したものとなったことが報告された。また本年の研究助成の応募は一件 (「感作性、一次刺激性物質の樹状細胞内レドックス環境に与える影響に関して」 (東北大・医・内科・病態学講座・皮膚科学分野 相場節也先生, 100 万円申請) のみで、企画委員 5 名による審査の結果、減額 80 万円と決定したと報告された。

・黒澤編集委員長より、AATEX の投稿論文数が極端に少ない状態であり現在 Dr. Coleman の review と原著論文 2 編が準備中で、2003 年の No. 1 はこれらで発行する予定であると報告された。現在、AATEX を MEDLINE や日本の国立情報研究所のデータベースに載せるよう審議中。さらに投稿規程改正についての検討中で、その前段階として投稿規程の電子化を行ったと報告された。Vol. 9 までは 2003 年の経費 120 万円で行い、余剰金が発生した場合は返金し、

それ以降は 2004 年の経費 120 万円を使用して発刊していく。会計の計画化を図るため 12 月に整理すると報告された。編集委員の名簿において土屋利江 (国立医薬品食品衛生研究所療品部) ではなく、萬有製薬の土屋敏行と訂正の要請がされた。

・吉村バリデーション委員長より注射刺激性試験代替法、光毒性試験代替法さらに皮膚刺激性試験代替法について報告された。注射刺激性試験代替法はヒト血管内皮細胞 IMEC-1 を使用して検討されていたが、細胞の使用において問題が生じたため、注射剤刺激性試験の代替法開発を中止して細胞を三井洋司教授に返還し、さらに三井教授が使用した血清の料金を支払うことで合意した。評価委員会より「資生堂提案の試験法の施設間差を評価するバリデーション研究を行う」ことを依頼され、光毒性代替法のバリデーションを行うことが決定された。当初予算 100,000 円に加えて、500,000 円の予算執行を行う予定。3 次元ヒト皮膚モデルのバリデーション研究を進行させる方向で小島委員が関係者に折衝中。また皮膚腐食性試験代替法研究においても国立医薬品食品衛生研究所と共同で 3 次元ヒト皮膚モデルの実用性の検討するため準備中と報告された。

・小島広報委員長より国立情報学研究所のサーバーを無償で借用して、新たなホームページを立ち上げ、アクセスは約 500 件/月で増加傾向にあり、現在、諸外国の各団体にもリンクを申し込みも行っていると報告された。またニューズレターのサイズを B5 から A4 に変更し年 4 回の発行を継続したと報告された。

・田中評価委員長より、資生堂から提案された光毒性試験法の一次評価を行い、代替法として有用であるが施設間バリデーションがなされていないことから、バリデーション委員会にバリデーションの依頼を行ったと報告された。

3) 論文賞報告

大野論文賞選考委員長より、動物実験代替法学会論文賞選考委員において 2003 年度の論文賞受賞者として 1) Morikawa 氏らの論文 “Prediction of human skin irritancy using a cultured human skin model: Comparison of chemical application procedures and development of a Novel chemical application procedure using the Vitrolife-skin model (AATEX 9(1), 1-10, 2002)” 及び 2) 黒澤努、

大谷若菜の総説“苦痛による生命科学実験分類”が選考の結果、受賞が決定された旨報告された。選考委員会は本年度の選考対象論文の著書となっていない者として、大野学会長が論文賞選考委員長をつとめ、遠藤 仁(杏林大学)、佐藤温重(宇宙開発事業団)、田中憲徳(食品薬品安全センター)、吉山友二(共立薬科大学)を含め合計5名で組織した。

4) 2003年第17回大会について

二宮博義第17回大会長より、予想を上回る参加者で盛会な大会になっている。演者の変更等が部分的にあったが、それ以外は順調に進んでいると報告された。

5) 2004年第18回大会準備状況について

渡邊正己第18回大会長より第18回大会は日本環境変異学会第33回大会と合同開催で行う。期日は2004年11月30日(火)から12月2日(木)に長崎市茂里町長崎ブリックホールおよびNBCホールにて行い、テーマは「独創的な研究と先端的技術開発の融合」とすることが報告された。

6) その他

大野学会長より動物実験代替法の検討に関して、欧米ではECVAMやICCVAMなどを設立し、その施設をコアとして行政が積極的に関与している。国際協力の機運が高まっている状況下で、日本においても動物実験代替法を中心とする新しいIn vitro安全性試験法のバリデーションと評価および情報収集を行うことを目的とした、国内および国際対応の窓口が必要となってきている。そこで現在JaCVAMを構成し、この施設を日本のコアにすることを計画していると報告された。

2. 審議事項

1) 平成14年決算(奥村会計幹事)

奥村会計幹事より2002年は研究助成において予算より50万円多く支出したが、バリデーションに対して60万円の寄付が有り、最終的に繰越金として4,440,922円となったと報告された。

2) 監査報告

岡本会計監査より2002年決算を監査した結果、決算はすべて正当であったと報告され、2002年決算は承認された。

3) 2004年予算案

奥村会計幹事より2004年予算案が提示され、2004年は国際学会関係の将来基金として100万円を計上したと報告された。吉村委員よりバリデーション費として50万円を計上してほしいと提案があり修正された。予備費について賛助会費等が少なくなっているため、予備費が200万円になり昨年よりも少なくなったなど指摘されたが、議論の結果予算案通りとされ、2004年予算案は承認された。

4) 規約改定について

佐藤規約改定委員長の代行として合田規約改定委員から新旧対応表をもとに報告された。会則において新たに名誉会員を設置し、第9条において名誉会員の選挙権、名誉会員選出内規における年齢などについて議論され、改訂通りにするが今後の検討する意義はあるとされた。細則第14条4(2)において会誌“Alternatives to Animal Testing and Experimentation (AATEX)”のExperimentationはExperimentsのほうがよいという意見がでたが現行通りとされた。また大会名においてJapanese Society of Alternatives to Animal Experimentsのofはforではないかとの意見も出されたが現行通りとされた。

資料訂正箇所は

- ・会則第4条(2)の「院生」を「院生等」に訂正
- ・会則第5条の「本会の諸事業に参加し」を「本会の定めるところにより諸事業に参加し」に訂正
- ・細則6条2(4)の「会長は評議員の資格を」を「新たに選出された会長は評議員の資格を」に訂正

その他は規約改定資料通りで承認された。

5) 2005年第19回大会長について

2005年第19回大会会長選出について議論された結果、田中憲徳評議員に決定することが承認された。

6) その他

評議員会を能率的に運営すること、並びに評議員各位が議事を予め読んでおくべきことが指摘された。

以上

2002年度日本動物実験代替法学会 決算報告

収入(円)			支出(円)		
項目	執行額	予算	項目	執行額	予算
繰越金	4,761,894	4,000,000	特別事業		
年会費収入 02年度 269名 その他 7名	1,388,000	1,600,000	研究助成	1,521,260	1,000,000
新入会費収入 2,000円×12名	24,000	60,000	論文賞	112,387	100,000
賛助会費収入 特別賛助会員 500,000円×5口	2,500,000	3,000,000	大会開催補助	1,000,315	1,000,000
一般賛助会員 50,000円×9口	450,000	500,000	バリデーション研究費用	0	200,000
法人会員 50,000円×12口	600,000	1,000,000	編集関連費用		
雑収入			編集委員会費用	1,030,431	1,500,000
別刷り追加代	111,100	30,000	ニューズレター発行	174,195	300,000
会誌収入	43,250		ホームページ	294,630	500,000
バリデーション寄付	600,000		国際学会関係		
銀行利子など	779	20,000	参加補助	805,040	1,000,000
			将来基金	0	0
			各委員会経費		
			企画委員会	420	100,000
			広報・国際交流委員会	0	500,000
			財務委員会	0	0
			規約改定委員会	0	0
			バリデーション委員会	0	0
			評価委員会	0	200,000
			学会運営費用		
			庶務幹事費用	0	50,000
			会議費	38,845	50,000
			旅費・交通費	36,000	100,000
			学会事務局費用	1,022,260	800,000
			選挙管理委員会	0	0
			会計幹事連絡費	2,324	5,000
			予備費	4,440,922	2,805,000
合計	10,479,023	10,210,000	合計	10,479,023	10,210,000

学会資産

項目	執行額(円)	内訳
国際会議用基金	6,038,990	(97年度分、利子を含む)
	4,010,646	(98年度分)
	0	(1999-2002年度)
	-840	振込み手数料
合計	10,048,796	

日本動物実験代替法学会2002年度収支会計に関して会計監査を実施しましたところ、適正に執行及び記録がなされていることを確認しましたので、ここに報告致します。

日本動物実験代替法学会 会計監査
氏名

夏目希規 (印)

日付け

2003年2月20日

日本動物実験代替法学会 会計監査
氏名

岡本裕子 (印)

日付け

2003. 2 / 12

皮膚刺激性試験代替法バリデーション研究の提案

バリデーション委員会

<目的>

本学会のバリデーション委員会では、昨年までに培養皮膚モデルTESTSKINのバリデーション研究を行い、このモデルの皮膚刺激性試験代替法としての有用性を確認しました。日本では、TESTSKINの他に、グンゼ株式会社のVitrolife-Skinがキットとして販売されていて、メーカーにはそのバリデーションを行いたいという要望があります。そこでバリデーション委員会では、以下の企画でVitrolifeSkinを用いた小規模バリデーション研究を行うことを考えました。実験を通してこの研究に参加したいという施設を募集します。ご希望の施設の代表者の方は後に示す連絡先に、メールでご連絡下さい（メール以外は不可です）。

<企画>

- ①研究主体 バリデーション委員会委員と実験施設代表者からなる実行委員会を組織して研究を行う。
- ②使用キット 培養皮膚モデル Vitrolife-Skin その他申し出のあるキット
- ③実験施設数 3施設以上
- ④被験物質数 10~20物質（参加施設の最低実施必要数は10物質）
- ⑤刺激性の指標 ET50 など
- ⑥試験期間 平成16年5月~8月

<実験参加条件>

- ①費用負担：キットを購入すること。（被験物質などは無償提供。）必要キット数は10物質実施として、6キット（予備試験2キット、本試験3キット、追加試験1キット）なので、市価半額で総額18万円（消費税別）が必要である。
- ②実行委員会：実験施設の代表が実行委員会に参加すること。
- ③実験者が事前に開催される技術移転セミナーに参加すること。
- ④必要設備であるCO₂インキュベーター及びマイクロプレートリーダー（OD540または570）を所有していること。
- ⑤参加施設の代表が代替法学会の会員であること。

<成果の公開>

研究成果は、日本動物実験代替法学会等に学術的な成果として報告する。

<申し込み先>

日本メナード化粧品株式会社 総合研究所
小島肇夫 (h.kojima@menard.co.jp)

<締め切り>

平成16年3月末

以上

広報委員会からのお願い

広報委員会

本年度より、ニュースレターの発行回数がこれまでの年4回から、2月と10月発行の年2回に減ります。この間の学会に関する重要なお知らせは随時メールでご報告する予定です。また、ホームページでもご覧いただけます。

まだメールアドレスをお持ちでない方は早急にご取得され、学会事務局までご連絡下さい。今年度内は、メールアドレスをお持ちでない方は、FAX または郵送にてご連絡します。しかし、来年度以降はこれらのサービスを行いませんので、今年度内にご対応をお願い申し上げます。なお、登録アドレスは携帯電話ではなく、パソコンのメールアドレスに限定させていただきますので、ご了承下さい。

日本動物実験代替法学会事務局
東京都文京区本郷 7-2-4 浅井ビル 501号室 学会事務局
TEL:03-3811-3666 FAX:03-3811-0676
E-mail : JDM05126@nifty.ne.jp

発行：日本動物実験代替法学会
会長：大野 泰雄
担当：広報委員会 委員長 小島 肇夫
日本メナード化粧品株式会社 総合研究所
〒451-0071 名古屋市西区鳥見町 2-7
TEL:052-531-6269 FAX:052-531-6277
E-mail:h.kojima@menard.co.jp